

かつしか若者未来会議 第4回会議（区長への事業説明）議事録

1 概要

日 時：令和8年7月30日（日曜） 10：30 から 11：30

場 所：葛飾区役所 区長応接室

参加者：12名（若者未来会議メンバー：3名、区：8名（区長、副区長、総務部長、すぐやる課長、事務局4名））



2 会議録

（1）開会【省略】

（2）区長挨拶【省略】

（3）葛飾区出席者紹介【省略】

（4）事業内容の説明プレゼンテーション

自己紹介を行った後、これまでの会議の経過や事業の方向性を、プレゼン資料を用いながら区長等へ説明した。

（5）区長講評

区長	期限が決まっている中で事業を進めていく必要がある。そのため余裕を持ったスケジュールを作成し、計画的に進めてほしい。「いどばた」「バスツアー」「かるた」など、これまでの議論やアイデアを
----	---

	活かして企画を進めていくことはとても良いと思う。今後さらにブラッシュアップしていくとのことだが、それと並行して実施に向けた準備も進めていくことが重要。バスツアーについては、ルートや参加人数など企画内容が具体化してくると、バス会社との調整や手配に想定以上の時間を要することがある。そのため、早い段階から準備に着手してほしい。また、「かるた」についても、実施方法の検討や参加者募集などに一定の期間が必要となる。まずは大まかなスケジュールを立て、早めに動き出していきたいと思う。「マップ」については昨年度も好評だった取組。ぜひイベント会場での展示や活用を検討してほしい。よろしくお願いします。
--	--

（６）意見交換

（区長）

実際に SNS で情報発信を行うためには、まず何を発信するのかを整理する必要がある。これまでの会議でさまざまなアイデアが出ていると思うので、それらを整理しながら発信につなげてほしい。また、SNS 発信と並行して他の企画も進めていく必要がある。ので、早めに行動してほしい。ぜひ葛飾区の魅力発信につなげていただきたい。

（総務部長）

後になって準備に追われることのないよう、バスツアーについては実施日を決めた段階で逆算してスケジュールを立てた方が良い。

（すぐやる課長）

それぞれの事業を見返してさらに掘り下げて検討したいことはあるか。

（メンバー）

SNS 発信については、郷土かるた等を活用したいと考えている。例えば、アニメの画像と実際の場所を照らし合わせながら紹介するような投稿を郷土かるたでできればよいと思う。郷土かるたは五十音ごとに題材や場所が決まっているため、同世代の人たちに懐かしさを感じてもらえるのではないかな。ただ、五十音すべてを私たちが完結させるのではなく、来年度以降も継続して取り組んでいける企画としてもよいと考えている。

(総務部長)

区で広報特派員を始めたのでぜひ見てみてほしい。様々な視点や発想を得られると思う。

(区長)

いろんな経験することは皆さんの人生を豊かにする。気が付いたことを積極的に取り入れながらチャレンジするといいと思う。実際にやってみると大変なことが多い。

(副区長)

バスツアーの行先はこれから検討か。

(メンバー)

この案が出たきっかけの一つは、当初スタンプラリーを検討していた際、水元公園など交通の便があまり良くない場所へ行くことが課題となったことである。それであれば、バスを活用してアクセスしづらい場所を巡ることで、葛飾区の魅力を1日で知ることができるのではないかと考えた。

(副区長)

具体的な行き先は考えているか。

(メンバー)

まだ決めていない。いわゆる観光地ではなくローカルなお店に交渉してカフェタイム等ができたらいいのかなと思っている。参加してくれた方たちと一緒に回ることが楽しいと思う。

(区長)

参加者に一部費用を負担してもらうのか、応募多数の場合は抽選にするのかなど、考えるべきことは多くある。それらも企画を進める上での楽しみの一つ。募集を行う際には、「どのようなルートを巡るのか」「どのような楽しみがあるのか」といった魅力が伝わるよう工夫してほしい。民間のバスツアーも様々な工夫をしているので、参考にしながら検討してもらいたい。

(副区長)

行き先を検討する際に、時間があればテクノプラザの職員から話を聞いてみるのも良いと思う。葛飾区の地域資源をいろいろ知っている。農業部署もあり、葛飾には農地が残っており農業委員会もある。水元の方にはブルーベリー農園があり、ふれあい農園な

ど収穫体験できる機会もある。そういうところにも視野を広げていくのも良いと思う。また、伝統産業など、その場で実際に体験できたりするので情報収集してみるといい。体験できるスポットへもアンテナを広げてみるのもいいのではないか。

（メンバー）

自分が住んでいる地域についてはよく知っていても、それ以外の地域については知らないことが多い。自分自身が知らない葛飾区を知るという視点も、バスツアーを考えた理由の一つ。

（すぐやる課長）

バスツアーはどの程度の人数で実施することを想定しているか。

（メンバー）

20～25名程度を想定している。参加したいと思ってもらえるようなコンテンツを用意する必要があると思っている。また、活動内容をどのように知ってもらえるのか、情報発信の方法も重要な課題と考えている。

（すぐやる課長）

まずは入口として、活動そのものを知ってもらうことが必要。

（メンバー）

そのためにも、まずは郷土かるたなどの情報発信を行い、懐かしいと感じてもらえる同世代の方々に興味を持ってもらえればと思っている。

（区長）

実際に行動に移すことは大変であるが、やり遂げたときには大きな達成感が得られると思う。バスツアーに参加した方々に喜んでもらい、さらに安全に実施できれば、皆さんにとっても非常に有意義な経験になると思う。

（すぐやる課長）

今回の内容を踏まえて最終的な企画の形に向けて頑張って進めていくようお願いいたします。

（8）閉会【省略】